

三重県中国ビジネスサポートデスク現地レポート

平成 26 年 8 月 1 9 日

上海デスク（上海納克名南企業管理諮詢有限公司）

「中国で起業した元Jリーガー」

ある日本人元サッカーJリーグ選手が、現役プレイヤーの引退後、今年に入りサッカーを通じ中国で起業しました。

日本人が設立した「サッカーサービス有限公司」

今年、サッカーワールドカップ（W杯）ブラジル大会が行われました。当地では中国代表チームが出場していないにもかかわらずW杯に対する中国人のサッカー熱は非常に高く、大会期間中の新聞報道などもW杯一色であり、サッカーにさほど詳しくない筆者をしても将来中国代表が初出場した暁には中国人民の熱狂（＝治安）はどうなってしまうのだろうかと少々心配にさえなります。そんな中、筆者が当地で日系企業の新規設立情報をチェックしている中に偶然気になる企業名を発見しました。

「深圳市樂山足球服務有限公司」（2014年6月設立）

通常中国での企業名は、会社の所在地と事業内容を反映させる必要があります。「深圳市」は香港に隣接する中国広東省の深圳市、「足球」「服務」はそれぞれ中国語で「サッカー」「サービス」を意味します。

元日本代表監督のオシム・トルシエ両監督の下でプレーを経験

筆者はその後、この会社は樂山孝志氏という日本人が中国でサッカースクールを運営するために設立した会社であることを知りました。樂山氏は元サッカー日本代表監督のオシム氏が当時監督を務めていたジェフ市原に入団後、サンフレッチェ広島やロシアのクラブチーム等を経て、2011年にやはり元サッカー日本代表監督のトルシエ氏が監督を務める中国のサッカークラブチーム深圳紅鑽に入団し、昨年現役を引退しました。

樂山氏は現役生活の最後の数年間、中国でプレーしていただけにもかかわらず、何故そのまま中国に留まり、自ら起業するまでに到ったのでしょうか？

目標は自身が育てた選手がいる中国代表チームがW杯に出場

上述した通り、中国はこれまでW杯の出場経験が無く、また国内リーグ全体のレベルも決して高くなく、「カンフーサッカー」などと揶揄されることもあります。そんなサッカー後進国の中国で、樂山氏は選手として滞在した深圳で多くの友人と出会い、また深圳を非常に気に入っており、今後はサッカーを通じて日中の架け橋になりたい、そして自分が育てた選手がW杯に出場することが夢であると、当地のネットメディアに答えていま

す。

中国の中学・高校では「部活動」が存在せず、ユース世代を育成する機構も極めて少ないため、Jリーグ発足以後、日本が積上げてきたユース世代の育成経験を中国で「プロデュース」することが、日本の新たな海外ビジネスチャンスになるのか、筆者は個人的にも今後を期待しています。